



展示期間 A:6/24(火)～7/23(水) B:7/24(木)～8/19(火) C:8/20(水)～9/7(日)

凡例：○は重要美術品を示します。

【展示室1】 武家のシンボルー武具・刀剣ー

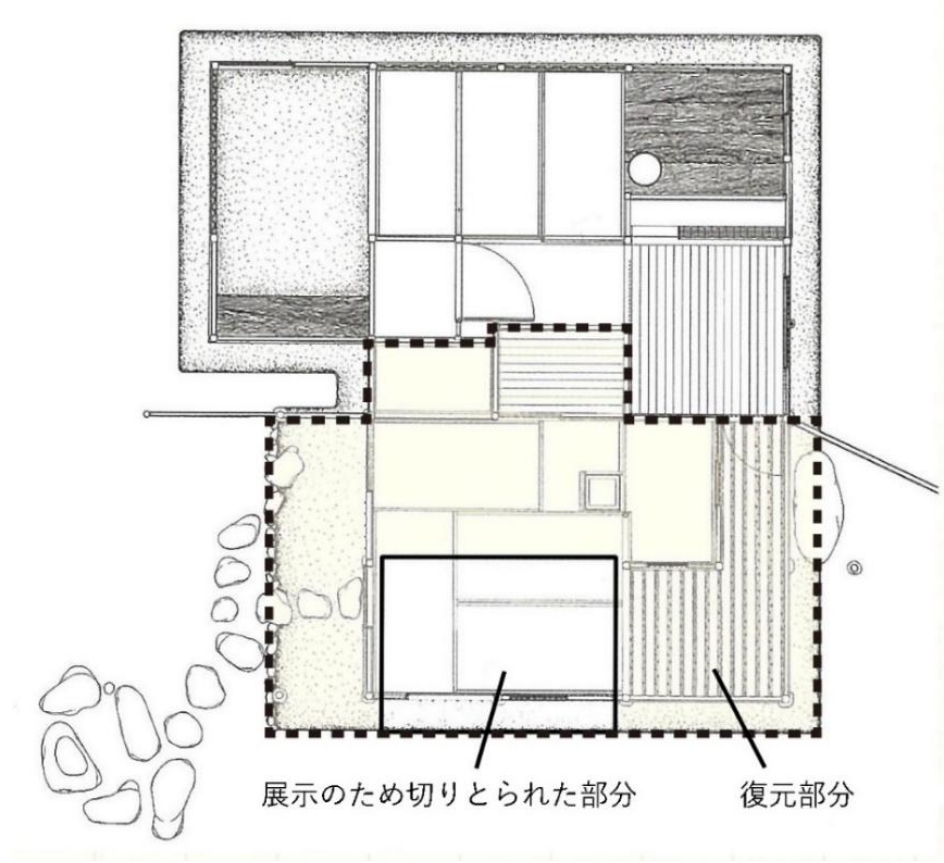
No. 指定	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	黒塗黒糸威具足	徳川義直(尾張家初代)着用	江戸	17	
2	梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	A
3	梨子地糸巻太刀拵		江戸	宝暦11年<1761>	B C
4	白熊毛采配 桐紋蒔絵柄	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	A
5	輪宝文金銀泥軍扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	B C
6	豹皮尻鞆	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	A
7	軍配団扇馬標(関ヶ原合戦時使用)	松平忠吉(徳川家康4男)所用	桃山	16	
8	青貝柄槍拵 黒塗鞘付 5本		江戸	18-19	
9	葵紋鳳凰蒔絵螺鈿飾太刀拵	徳川斉荘(尾張家12代)・慶勝(同家14代)所用	江戸	天保10年<1839>	A
10	葵紋黄金造毛抜形太刀拵	徳川将軍家伝来	江戸	18	B C
11	蠟色塗刀拵	徳川慶勝(尾張家14代)所用	江戸	嘉永5年<1852>	A
12	蠟色塗脇指拵	徳川慶勝(尾張家14代)所用	江戸	嘉永5年<1852>	A
13	蠟色塗刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	元治2年<1865>	B C
14	蠟色塗脇指拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	元治元年<1864>	B C
15 ○	太刀 銘 国宗	徳川家斉(11代将軍)・徳川斉朝(尾張家10代)所持	鎌倉	13	
16	刀 無銘 貞宗	片桐且元・徳川家康所持	鎌倉-南北朝	14	
17	脇指(中脇指) 銘 河内守源本行作 願日本唯一宝永元歳十一月吉日		江戸	宝永元年<1704>	
18	短刀 無銘 則重	蜂須賀家政(蓬庵)・徳川家康所持	南北朝	14	
19	重藤弓	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	
20	征矢 39点の内	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	
21	鏃(矢の根) 74本の内	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	
22	火縄銃 三匁五分筒 銘 以青符鉄三重張 延宝六午年十二月吉日 芝辻小兵衛清正(花押) 同彦八清元(花押)		江戸	延宝6年<1678>	
23	火縄銃 三匁五分筒 銘 鍛藤巻張 元禄九丙子年九月吉日 松屋半左衛門寛重(花押)		江戸	元禄9年<1696>	
24	唐銅五十目短筒		江戸	18	
25	火縄立		江戸	17-18	
26	火縄差		江戸	17-18	
27	木綿菖蒲文染玉火薬袋(口薬入・早合・火打付)		江戸	18-19	
28	唐銅瓢形胴薬入		江戸	18-19	
29	朱塗革胴乱(早合入)		江戸	17-18	
30	三匁五分弾鑄形 銘 芝辻 御もん之いかた 三匁五分		江戸	17-18	
31	三匁七分弾鑄形 銘 三かこ御筒かるめ 芝 三匁七分		江戸	17-18	
32	匙鑄鍋		江戸	18-19	
33	銅柄杓文字彫 二匁		江戸	18-19	
34	牛図三所物 銘 紋祐乗 光美(花押)	後藤祐乗(後藤家初代)作	室町	15	
35	蛸貝図二所物 無銘 程乗	伝後藤程乗(後藤家9代)作	江戸	17	
36	竹に鶏図四分一鐺 銘 程乗作 光孝(花押)	後藤程乗(後藤家9代)作	江戸	17	
37	三番叟図目貫 無銘 乗真	伝後藤乗真(後藤家3代)作	室町	16	
38	葵紋透鉄鐺 銘 忠時	徳川五郎太(尾張家9代宗睦嫡孫)所用	江戸	19	
39	駿府御分物御道具帳(副本) 御腰物帳・目貫かうかい帳 3冊の内		江戸	18	
40 ○	本阿弥光一折紙 寛政拾壹年未霜月三日 (作品No. 15 太刀 銘 国宗 附属)		江戸	寛政11年<1799>	

【展示室2】 大名の数寄 ―茶の湯―					
No. 指定	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
猿面茶室					
1	和歌色紙「つゝめとも」	藤原伊房筆	平安	11	A
2	古溪宗陳法語 南泉斬猫	古溪宗陳筆・清巖宗渭追書 関戸家伝来	桃山	16	B
3	後奈良天皇和歌色紙「白雲に」		室町	16	C
4	唐銅獸耳中蕪花生		元-明	14-15	
5	天明車軸釜		室町	16	
6	染付蓮唐草文水指		明	16-17	
7	柳藤四郎茶入		室町	15	
8	小堀遠州竹茶杓 銘 郭公	徳川光友(尾張家2代)・綱誠(同家3代)・吉通(同家4代)所用	江戸	17	A
9	島竹茶杓	徳川宗勝(尾張家8代)所用	江戸	18	B C
10	珠光青磁茶碗 銘 荷葉		南宋	13	
11	聖廟法樂和歌	河緒実陳筆・霊元法皇加筆	江戸	17-18	A
12	柏木切 応和二年五月四日庚申内裏歌合 (廿卷本類従聚歌合)	伝藤原忠家筆 勅使河原順三・千代子氏寄贈	平安	11-12	B
13	時代不同歌合絵 蟬丸	伝藤原為家筆 徳川綱誠(尾張家3代)・吉通(同4代)所用	室町	15	C
14 ○	蘆葉達磨図	宮本武蔵筆	江戸	17	A
15	寒山図 二幅対の内 左幅	伝賢江祥啓筆	室町	15	B
16	小野小町像	徳川義直(尾張家初代)画賛	江戸	17	C
17	青磁算木形花生	個人蔵	南宋	12-13	
18	鉄絵牡丹文槌形花生	武野紹鷗所用・山本道伝家伝来	朝鮮王朝	15-16	
19	備前火櫛水指	岡谷家寄贈	江戸	17	
20	唐物茶壺 銘 夕立 大名物	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	南宋-元	13-14	
21	唐物茄子茶入		南宋-元	13-14	
22	古薩摩瓢形茶入		江戸	17	
23	安南染付蜻蛉文茶碗 銘 廿日月	岡谷家寄贈	ベトナム	17	
24	礼賓三島茶碗		朝鮮王朝	15	
25	南京染付樹下人物図仙蓋瓶	個人蔵	明	17	

【見どころ ―猿面茶室―】

名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていた。

もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝わる。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築されたが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付。さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設されたのち、昭和20年(1945)に戦災焼失した。



【展示室3】 大名の室礼 ―書院飾り―

No. 指定	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間					
押板飾り					
1	釈迦・寒山・拾得図 三幅対	伝雪舟等楊筆 成瀬正肥(犬山成瀬家9代)所用	江戸	17	B
2	雲龍・雪梅・風竹図 三幅対	狩野山雪筆 吉田友昭氏寄贈	江戸	17	A
3	黄石公張良・昇龍・降龍図 三幅対	伝狩野探幽筆	江戸	19	C
4	青磁燭台		明	16	
5	青磁菊花文三ツ足香炉		元	14	
6	青磁竹節文中蕪形花生		南宋-元	13-14	
7	堆朱梔子文香合 彫銘「張成造」		明	16	A
8	堆朱松下人物図香合		明	16-17	B C
9	火道具		江戸	18	
10	古銅饗饗文分銅形花生 一对		明	15-16	

No.	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
違棚飾り						
11	金紫銅鴛鴦香炉			明	15-16	
12	紅花緑葉牡丹尾長鳥文沈箱			明	16	A
13	龍蜀江繫文蒔絵手箱			江戸	17-18	B C
14	八角網代食籠		斉藤芳克氏寄贈	明-清	16-17	A
15	山水楼閣人物箔絵食籠			琉球	17-18	B C
書院床飾り						
16	牡丹尾長鳥文堆朱軸盆			元	14	A
17	螺鈿人物図軸盆			明-清	16-17	B C
18	玉雨龍形筆架			明	16-17	
19	雨龍透彫刀子	銘 康継作之		江戸	17	
20	砂張筆			明	16-17	A
21	堆黒屈輪文軸筆			南宋	13	B C
22	古銅獅子形文鎮			明	16-17	
23	古銅鴛鴦形水滴			明	16-17	
24	端溪琴高仙人硯			明	16-17	
25	染付高士観月図硯屏			明	16-17	
26	紫石卦算	二対の内		江戸	19	
27	堆朱人物虎図印籠			明-清	17-18	A
28	堆朱騎馬人物図印籠			江戸	19	B C
29	古銅鳳凰注口仙蓋瓶			明	15-16	
30	堆黒菱形唐花文盆			江戸	17	A

鎖の間

上段の間						
1	残月円硯			江戸	17	
2	黄銅葵紋唐草彫台子皆具	一式		江戸	19	

次の間						
3	南泉斬猫図	春浦宗瀝賛 関戸家伝来		室町	15	A
4	一行書「明月来相照」	徳川宗春(尾張家7代)筆		江戸	18	C
5	一行書「君子重言行」	徳川慶勝(尾張家14代)筆		江戸	19	B
6	唐銅玉取獅子香炉			江戸	18-19	
7	瓢釜	加賀前田家伝来・岡谷家寄贈		江戸	17	
8	唐物自在釜掛			明	16	
9	御深井焼三島写笹耳水指	個人蔵		江戸	19	
10	紹鷗大棗(彭祖棗)	中村宗哲(3代)作 個人蔵		江戸	18	A
11	黒塗葵紋付棗	一対の内 俊恭院福君(尾張家11代斉温継室)所用		江戸	19	B C
12	染付牡丹唐草文茶碗	徳川斉荘(尾張家12代)所用		明-清	17-18	
13	南蛮メ切建水			東南アジア	16-17	

【見どころ ー鎖の間ー】

天井から炉の上に鎖を釣って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院（広間）の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的に使われた。

【展示室4】 武家の式楽 ー能ー					
No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面 童子		江戸	17-18	A
2	能面 小飛出	個人蔵	江戸	19	A
3	能面 深井	伝河内井関作	江戸	18	B
4	能面 真角(筋怪士)	伝出目栄満作	江戸	17-18	B
5	能面 平太	伝徳若作	江戸	17	C
6	能面 中将 焼印「天下一河内」 朱漆花押 河内大掾家重作		江戸	17	C
能舞台					
7	萌黄地紗綾形に輪花文金欄袷法被		江戸	18	A
8	紺地唐花文金欄袷法被		江戸	19	B
9	白地唐花唐草文金欄袷法被		江戸	18-19	C
10	紫地桧垣に牡丹文長絹		江戸	18-19	A
11	萌黄地蚊帳釣草文金欄長絹		江戸	19	B
12	萌黄地檜垣文長絹	【見どころ ー能舞台ー】 御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。 正月2日(後に3日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うこともあり、能は必須の教養とされていた。	江戸	18	C
13	白地切金に鶴亀文掛直垂		江戸	19	B
14	柳茶地鶴亀文掛直垂		江戸	18	C
15	花色地竹の丸文掛素袍		江戸	18-19	A
16	紅・白・萌黄・紫段籠目に秋の野文唐織		江戸	18	C
17	金・白・紅・花色石畳に牡丹唐獅子文厚板唐織		江戸	18	A
18	萌黄地亀甲・鶴菱・菊菱文厚板唐織		江戸	18	A
19	赤地亀甲に鳳凰の丸文厚板唐織		江戸	17	B
20	格子と萌黄地亀甲文段替厚板		江戸	18	C
21	白地青海波文摺箔		江戸	18	B
22	白狐戴		江戸	19	A
23	刀身		江戸	19	A
24	槌		江戸	19	A
25	立烏帽子		江戸	19	B
26	輪宝蒔絵太刀(子方用)		江戸	19	B
27	幔幕に菊図中啓		江戸	19	B
28	能管 蟬折	伝獅子田作	室町	16	C
29	梨打烏帽子		江戸	19	C
30	波に入り日帆掛舟図中啓		江戸	19	C

【展示室5】 大名の雅び ー奥道具ー					
No.	指 定 名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	四季山水図屏風 六曲一双	伝賢江祥啓筆	室町	15-16	A
2	白鷺に鵲鴿図屏風 四曲一隻	田中訥言筆 岡谷家寄贈	江戸	19	B
3	月に竹図屏風 二曲一隻	渡辺清筆 吉田友昭氏寄贈	江戸	19	B
4	○ 芒燕図屏風 六曲一双	伝小栗宗丹筆	桃山	16-17	C
5	古筆手鑑「尾陽」 60面の内		奈良-江戸	8-17	A
6	大江山絵巻(酒吞童子絵巻) 3巻の内 下巻		江戸	17	B
7	築地名苑真景図		江戸	19	C
8	蠟色塗合口拵	徳川家斉(11代将軍)・徳川齐温(尾張家11代)所用	江戸	19	A
9	菊折枝蒔絵守刀掛	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	19	A
10	蓮池蒔絵経箱	【見どころ ー婚礼調度ー】 奥道具の代表は、大名家に嫁いだ姫君たちが持参した婚礼調度である。婚礼は武家にとって政治力や財力、家の格式を象徴する、最も華やかで重大な儀式であった。婚礼の際は、身の回りで用いられる調度類一式が、統一された意匠のもとに用意された。豪華な蒔絵の調度品(香道具・化粧道具・文房具・飲食器・遊戯具・楽器など)をはじめ、絵画や書籍といった品々も武家女性の教養やたしなみに必須であり、その種類は多岐にわたる。	室町	15	B C
11	八橋蒔絵提重		江戸	18-19	A
12	海棠山雀蒔絵重箱		江戸	19	A
13	梅蒔絵重箱		江戸	17	A
14	蠟色銘々蒔絵会席椀 10客の内		江戸	19	A
15	吉野塗椀・湯次		江戸	19	A
16	橘唐草蒔絵鏡立		江戸	19	B C
17	橘唐草蒔絵鏡巢		江戸	19	B C
18	橘唐草蒔絵歯黒箱		江戸	19	B C
19	橘唐草蒔絵嗽茶碗・台		江戸	19	B C
20	橘唐草蒔絵耳盥・輪台		江戸	19	B C